



新病院長の紹介

済生会みすみ病院



院長

庄野 弘幸

地域とともに生き残る病院を目指して

二〇一七年四月より、済生会みすみ病院の院長に就任しました庄野弘幸です。

済生会みすみ病院は、国立療養所三角病院の統廃合により、二〇〇三年に国から済生会へ移譲された病院です。地域の病院が消滅しないようにとの住民の方からの強い要望があり、済生会が引き継ぐことになったという経緯があります。「医療・福祉を通して安心して生活できる地域創りに貢献します」が当院の理念です。

地域の少子高齢化は著明で、高齢化率は四〇％目前です（三角町はすでに四二％）。入院患者さんの半数が八十歳以上といった状況です。この環境の変化に合わせて、当院も役割を変えてきました。十五年前には一四〇床すべて一般病床でしたが、現在、病床数を一二八床に減少し

（一般病床四三床、回復期リハビリテーション病棟四〇床、地域包括ケア病床四五床）その主な役割も急性期から回復期へ変化しています。リハビリ庭園での屋外リハビリは患者さんに好評です。在宅分野では、訪問リハビリに加えて二〇一六年からは通所リハビリも併設しました。高齢者が、元気に地域で生活を続けられるようにと、日々の診療を行っています。

地域のニーズである救急医療にもできるだけ対応しております。救急車での搬送は年間八五〇前後です。しかしながら慢性的な医師不足の状態が続いており、救急体制を維持するのが厳しい状況です。熊本大学医学部附属病院および済生会熊本病院から応援をいただきながら維持しています。医師の負担軽減のためにも、患者さんのなるべく早い回復のためにも、「多職種協働」を掲げて、病院スタッフ全員で患者さんの診療にあたっています。

また、地域の皆様の健康的な生活を支援するため、公民館などで「出前健康講座」を年間七十回程度開催しています。これも医師、看護師、薬剤師、リハビリ、管理栄養士、事務部門などすべての職種が担当して

います。

当院の医療圏は、三角町と大矢野町、松島町になります。この地域の大きな問題は、高齢化とともに著明な人口減少です。この三町の人口は十五年で約三万六〇〇〇人から約二万八〇〇〇人へと約八〇〇〇人（二〇％以上）も減少しています。独居老人、老々介護の世帯も増えていきます。医療や介護だけでなく、町としての機能も危ぶまれる事態です。地域の皆様と相談する必要がありますが、当院を含めたコンパクトシティ構想といったことも模索しているところ です。

当院には、他の施設と異なる問題点ももう一つあります。医療圏の問題です。当院は宇城市（宇城医療圏）にあります。患者の半数以上は大矢野町、松島町の天草医療圏の方です。行政については、宇城市と上天草市の二つに関係しています。地域医療構想においては、宇城医療圏、天草医療圏の二つに関連しています。今後の病院の運営を相談するところが、常に二つ存在しており、複雑な状況です。地域の皆様と積極的に交流し、地域とともに生き続ける病院を目指していきたいと考えています。

これからは熊本大学関係の先生方、肥後医育振興会の皆様にはお世話になることも多いと思います。皆様の多大なるご協力、ご指導、ご鞭撻をよろしく願います。

